

# 学校適正規模・適正配置の基本的な考え方

【資料1】

<p><b>第4期教育振興基本計画</b> (※R5.6.16閣議決定より一部抜粋)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力の育成</li> <li>・豊かな心の育成</li> <li>・主体的に社会の形成に参画する態度の育成、規範意識の醸成</li> <li>・地域の教育力の向上</li> <li>・幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成</li> <li>・健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成</li> <li>・教育DXの推進、デジタル人材の育成 など</li> </ul>
<p><b>みどり市がめざしている児童生徒の姿</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い知性、豊かな情操と徳性をもつ</li> <li>・社会の変化に主体的に対応できる</li> <li>・国際的視野に立った協調の精神をもつ (教育行政方針基本理念より)</li> <li>・たくましく生きるための健康や体力がある</li> <li>・郷土を愛する心と社会連帯意識がある</li> <li>・自然と環境を守り、文化や伝統を尊重できる</li> </ul>

<p><b>教育委員会</b>      <b>これからの時代を意識した視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化：ICT機器を有効活用する能力の育成</li> <li>・国際化：国の内外で活躍できる資質能力の育成</li> <li>・多様化：多様な個性をもつ人を尊重できる人の育成 ：一人一人を大切にできる人の育成</li> </ul> <p>(みどり市教育委員会の重点)</p>	<p><b>市施策</b>      <b>みどり市の重点施策（教育関連）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な子育て支援による少子化対策</li> <li>・ターゲット（子育て世代）を意識した移住定住促進</li> </ul> <p><b>みどり市の地域再生計画（基本目標1）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代をターゲットとした教育環境の充実 ：安心で、きめ細かな教育の充実 ：小中一貫校（義務教育学校）の導入</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## みどり市の学校適正規模の基本的な考え方

・1学年1学級以上（小学校は6学級以上、中学校は3学級以上）を標準とする。 ※特別支援学級数を除く

**【理由】**

- ※市内の小学校において、小規模校化が進んでいる学校では、合併しても10年前後で再び1学年1学級となる見込みである。このため、早急に合併したとしてもメリットは少ないため。また、1学級の人数が多い状態で維持することはメリットが少ないため。
- ※学校が保育を含めた地域コミュニティの核であることを踏まえ、地域全体で子育てをしていく考え方を醸成していくため。
- ※市の施策である子育て世代を意識した移住定住政策を進める上で、「小規模校を維持していくことは、一人一人を大切にした教育を実践していく」というみどり市のアピールポイントとなるため。
- ※ICT機器を有効活用した遠隔合同授業等の実施により、協働的な学びについても補償できるため。
- ※小学校の体育科や図工科、中学校の美術科、技術・家庭科などについては、地域ブロックごとの授業とすることで、限られた教職員数でも学習の質の維持ができるため。

**【統合する場合の検討基準（視点）】**

- ※児童生徒数の観点からは、複式学級が見込まれる段階で合併に向けた協議を開始するものとし、その際、義務教育学校化をめざす。
- ※学校施設の観点からは、校舎の目標使用年数を踏まえて検討を開始するなど、計画的に進める。
- ※あずま小中学校は小規模特例校として除く。

## みどり市の学校適正配置の基本的な考え方

・通学時間は、通学方法にかかわらず片道45分以内を標準とする。  
 ・徒歩通学は3キロメートル未満の距離となるようにする。  
 ・小中学校の円滑な接続ができるよう学校区を見直す。  
 ・施設の目標使用年数を見通し、改修や建て替えの検討を開始する。

**【理由】**

- ※現在の市内小中学生の通学距離は、概ね3キロメートル未満となっている。さらに、みどり市の地形や地域の特徴、現在配置されている学校数を鑑みると、通学方法に関わらず片道45分以内の通学時間が健康、体力向上の観点からも適正と考えられるため。  
(一般的な小学生の歩く速さは、10~15分/km)
- ※学校適正配置と合わせた学校区の見直しによって小中学校の接続が円滑になり、中1ギャップや不登校対策への効果が期待されるため。
- ※学校適正規模の検討と併せて、施設の目標使用年数を見通した計画的な学校施設の整備を行うことで、教育環境の充実が図れるため。

### みどり市の学校適正規模の基本的な考え方

- ・1学年1学級以上（小学校は6学級以上、中学校は3学級以上）を標準とする。 ※特別支援学級数を除く

### みどり市の学校適正配置の基本的な考え方

- ・通学時間は、通学方法にかかわらず片道45分以内を標準とする。
- ・徒歩通学は3キロメートル未満の距離となるようにする。
- ・小中学校の円滑な接続ができるよう学校区を見直す。
- ・施設の耐用年数を見通し、改修や建て替えの検討を開始する。